六月水無月は燕子花色

奥村 俊三

尾形光琳は知立八橋の燕子花を題材に、「燕子花図屏風」（根津美術館蔵）や「八橋図屏風」（メトロポリタン美術館蔵）という傑作を描いた。休日に無量壽寺でその燕子花を愛でながら、ふと「カキツバタ」を漢字で表す「燕子花」と「杜若」の使い分けに疑問を抱いた。調べてみると、牧野富太郎博士の「カキツバタ一家言」という小文に行き当たった。博士によれば、そのどちらの表記も誤用であり、和名のカキツバタが正しいのだという。付言すれば、博士は欅や馬鈴薯、紫陽花、菖蒲なども挙げて、外来の文字（漢字）の誤用は数多い、と苦言を呈している。そうだったのか、知らなかった。しかし、この「燕子花」という字面には、やはり愛着が残る。正しい名称が「カキツバタ」だと知った今も、水滴をたたえる鮮烈な青い花を、「燕子花」の名によって、ツバメが翼を広げて翔ぶ姿を想像することも楽しいからである。

写真は雨上がりの知立無量壽寺のカキツバタ